

TPUL1G513 シングル、ピン選択可能、デジタル タイミングでの再トリガ可能、モノステーブル マルチバイブレータ

1 特長

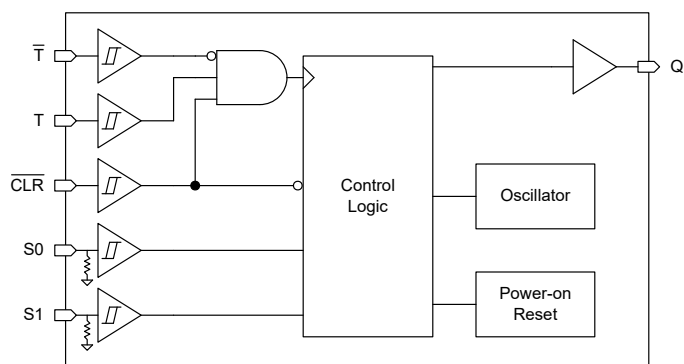
- 標準値 1%、最大パルス幅変動 10%
- 入力グリッチ フィルタは、スプリアス入力を無視
- 事前設定済みのデジタル タイミング — 外部タイミング部品は不要
- 注文可能な 3 つのパルス幅オプションを選択可能
- デフォルト状態 ($S0 = S1 = \text{Low}$) は、内部プルダウン抵抗 ($1\text{M}\Omega$) で設定されます。
- 幅広い動作範囲: $1.65\text{V} \sim 5.5\text{V}$
- I/O クランプ ダイオードは過電圧および低電圧過渡から保護します
- すべての入力のシュミットトリガアーキテクチャ

2 アプリケーション

- デジタル振幅シフト キーイング (ASK) 信号を復調します
- システムを一定時間リセットします
- 正の固定幅デジタル パルスを生成します
- デジタル信号の立ち上がりエッジを検出します
- デジタル信号の立ち下がりエッジを検出します
- スイッチのデバウンス

3 説明

TPUL1G513 デバイスは、固定幅パルスのジェネレータです。出力パルス幅は、ピン $S0$ とピン $S1$ を設定すること



機能ブロック図

より選択できます。TPUL1G513 デバイスは、立ち上がりエッジ (T) トリガおよび立ち下がりエッジ ($\bar{T}$) トリガに加えて、非同期クリア (CLR) 入力を備えています。出力がアクティブ (再トリガ) の間にトリガを印加すると、追加の 1 パルス幅にわたって出力はアクティブ状態を維持します。

パッケージ情報

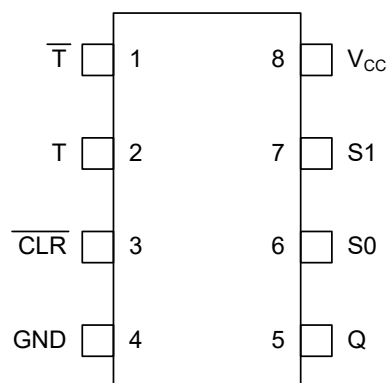
型番	パッケージ ⁽¹⁾	パッケージサイズ ⁽²⁾	本体サイズ ⁽³⁾
TPUL1G513	DRL (SOT-5X3, 8)	$2.1 \times 1.6\text{mm}$	$2.1 \times 1.6\text{mm}$

- 利用可能なすべてのパッケージについては、データシートの末尾にある注文情報を参照してください。
- パッケージサイズ (長さ × 幅) は公称値であり、該当する場合はピンも含まれます。
- 本体サイズ (長さ × 幅) は公称値であり、ピンは含まれません。

表 3-1. 製品情報

部品番号	選択可能なパルス幅 ⁽¹⁾		
	T1	T2 ⁽²⁾	T3
TPUL1G51300	1s	3s	6.8s
TPUL1G51301	10ms	30ms	68ms
TPUL1G51302	10 μs	30 μs	68 μs

- 表近似値。詳細については、「代表的特性」セクションを参照
- $S0$ 、 $S1$ が接続解除のままになっている場合のデフォルト値



ピン配置図



目次

1 特長	1	7.3 機能説明	13
2 アプリケーション	1	7.4 デバイスの機能モード	16
3 説明	1	8 アプリケーションと実装	17
4 ピン構成および機能	3	8.1 使用上の注意	17
5 仕様	4	8.2 代表的なアプリケーション - エッジ検出器	17
5.1 絶対最大定格.....	4	8.3 電源に関する推奨事項	19
5.2 ESD 定格.....	4	8.4 レイアウト	19
5.3 推奨動作条件.....	4	9 デバイスおよびドキュメントのサポート	21
5.4 熱に関する情報.....	5	9.1 ドキュメントのサポート.....	21
5.5 電気的特性.....	5	9.2 ドキュメントの更新通知を受け取る方法.....	21
5.6 タイミング特性.....	6	9.3 サポート・リソース.....	21
5.7 スイッチング特性.....	8	9.4 商標.....	21
5.8 代表的特性.....	9	9.5 静電気放電に関する注意事項.....	21
6 パラメータ測定情報	11	9.6 用語集.....	21
7 詳細説明	13	10 改訂履歴	21
7.1 概要.....	13	11 メカニカル、パッケージ、および注文情報	22
7.2 機能ブロック図.....	13		

4 ピン構成および機能

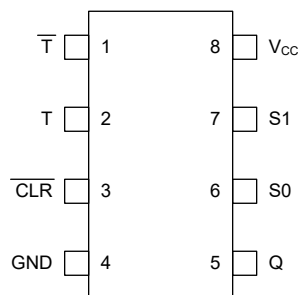


図 4-1. TPUL1G513 DRL パッケージ（上面図）

ピンの機能

ピン		タイプ ⁽¹⁾	説明
名称	DRL 番号		
T	1	I	立ち下がりエッジトリガ入力。T と $\overline{\text{CLR}}$ を High に保持する必要があります
T	2	I	立ち上がりエッジトリガ入力。 $\overline{\text{T}}$ を Low に、 $\overline{\text{CLR}}$ を High に保持する必要があります
$\overline{\text{CLR}}$	3	I	非同期クリア、アクティブ "Low"。T が High に、 $\overline{\text{T}}$ が Low に保持されている場合、立ち上がりエッジトリガ入力として使用することもできます
GND	4	G	グランド
Q	5	O	出力、アクティブ "High"
S0	6	I	構成入力 0。1M Ω の内部プルダウン抵抗を含む
S1	7	I	構成入力 1。1M Ω の内部プルダウン抵抗を含む
V _{CC}	8	P	正電源

(1) 信号タイプ: I = 入力、O = 出力、G = グランド、P = 電源。

5 仕様

5.1 絶対最大定格

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り) ⁽¹⁾

			最小値	最大値	単位
V_{CC}	電源電圧範囲		-0.5	6.5	V
V_I	デジタル入力電圧範囲 ⁽²⁾		-0.5	$V_{CC} + 0.5$	V
V_O	デジタル出力電圧範囲 ⁽²⁾		-0.5	$V_{CC} + 0.5$	V
I_{IK}	入力クランプ ダイオード電流、連続	$V_I < -0.5V$ または $V_I > V_{CC} + 0.5$		± 20	mA
	入力クランプ ダイオード電流、パルス 1 μ s	$V_I < -0.5V$ または $V_I > V_{CC} + 0.5$		± 200	mA
I_{OK}	出力クランプ ダイオード電流、連続	$V_I < -0.5V$ または $V_I > V_{CC} + 0.5$		± 20	mA
	出力クランプ ダイオード電流、パルス 1 μ s	$V_I < -0.5V$ または $V_I > V_{CC} + 0.5$		± 200	mA
I_O	デジタル出力電流、連続	$V_O = 0 \sim V_{CC}$		± 20	mA
	デジタル出力電流、パルス 1 μ s	$V_O = 0 \sim V_{CC}$		± 100	mA
	V_{CC} または GND を通過する連続電流			± 60	mA
T_J	接合部温度			150	°C
T_{stg}	保存温度		-65	150	°C

- (1) 「絶対最大定格」外での操作は、デバイスに恒久的な損傷を引き起こす可能性があります。「絶対最大定格」は、これらの条件において、また「推奨動作条件」に示された値を超える他のいかなる条件においても、本デバイスが動作することを暗黙に示すものではありません。「推奨動作条件」の範囲外でも、「絶対最大定格」の範囲内であれば、一時的な動作によってデバイスが損傷するとは限りませんが、完全には機能しない可能性があります。この方法でデバイスを動作させると、デバイスの信頼性、機能性、性能に影響を及ぼし、デバイスの寿命を短縮する可能性があります。
- (2) 関連するクランプ電流定格を順守しても、電圧定格を超えることがあります。

5.2 ESD 定格

			値	単位
$V_{(ESD)}$	静電放電	人体モデル (HBM)、ANSI/ESDA/JEDEC JS-001 準拠 ⁽¹⁾	± 2000	V
		デバイス帯電モデル (CDM)、ANSI/ESDA/JEDEC JS-002 準拠 ⁽²⁾	± 1000	

- (1) JEDEC のドキュメント JEP155 に、500V HBM では標準の ESD 管理プロセスで安全な製造が可能であると規定されています。
- (2) JEDEC のドキュメント JEP157 に、250V CDM では標準の ESD 管理プロセスで安全な製造が可能であると規定されています。

5.3 推奨動作条件

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り)

			最小値	最大値	単位
V_{CC}	電源電圧		1.65	5.5	V
V_I	入力電圧 ⁽¹⁾		0	V_{CC}	V
V_O	出力電圧		0	V_{CC}	V
I_{OH} ⁽²⁾	High レベル出力電流	$V_{CC} = 1.65V \sim 2.2V$		-6	mA
		$V_{CC} = 2.3V \sim 5.5V$		-20	mA
I_{OL} ⁽²⁾	Low レベル出力電流	$V_{CC} = 1.65V \sim 5.5V$		20	mA
C_L	デジタル出力負荷容量	$V_{CC} = 1.65V \sim 5.5V$		50	pF
V_{POR}	パワーオンリセット ランプ電圧	$\Delta t / \Delta V_{CC} \geq 20\mu s/V$	0.3	1.5	V
$\Delta t / \Delta V_{CC}$	パワーオン ランプ レート	$V_{CC} = 0.3V \sim 1.5V$	20		$\mu s/V$

5.3 推奨動作条件 (続き)

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り)

			最小値	最大値	単位
$\Delta t/\Delta v$	入力遷移の立ち上がりまたは立ち下がりレート	$V_{CC} = 1.65V \sim 5.5V$		100	ms/V
T_A	外気温度での動作時		-40	125	°C

- (1) デバイスが適切に動作するように、デバイスの未使用の入力はすべて、 V_{CC} または **GND** に固定する必要があります。
- (2) 連続動作の推奨最大出力電流。 V_{OH} および V_{OL} の仕様を維持するためのテスト電流の値については、電気的特性を参照してください。12mA を超える平均出力電流で動作すると、デバイスの信頼性に影響を及ぼし、デバイスの寿命を縮める可能性があります。

5.4 熱に関する情報

パッケージ	ピン	熱評価基準 ⁽¹⁾						単位
		$R_{\theta JA}$	$R_{\theta JC(top)}$	$R_{\theta JB}$	Ψ_{JT}	Ψ_{JB}	$R_{\theta JC(bot)}$	
DRL (SOT-5X3)	8	118.4	77.1	26.5	3.9	25.9	該当なし	°C/W

- (1) 従来および最新の熱評価基準の詳細については、『[半導体および IC パッケージの熱評価基準](#)』アプリケーション ノートを参照してください。

5.5 電気的特性

自由空気での動作温度範囲内、 $T_A = 25^\circ C$ で測定した代表値 (特に記述のない限り)。

パラメータ		テスト条件	V_{CC}	最小値	標準値	最大値	単位
V_{T+}	正のスイッチング スレッショルド		1.65V	0.84	1.02	1.21	V
			1.8V	0.91	1.11	1.31	
			2.5V	1.24	1.48	1.72	
			3.3V	1.59	1.85	2.13	
			5V	2.29	2.65	3.03	
			5.5V	2.5	2.88	3.3	
V_{T-}	負のスイッチング スレッショルド		1.65V	0.51	0.67	0.85	V
			1.8V	0.58	0.74	0.93	
			2.5V	0.88	1.07	1.29	
			3.3V	1.19	1.42	1.68	
			5V	1.8	2.11	2.47	
			5.5V	1.99	2.32	2.71	
ΔV_T	ヒステリシス ($V_{T+} - V_{T-}$)		1.65V	0.23	0.36	0.49	V
			1.8V	0.24	0.37	0.5	
			2.5V	0.29	0.40	0.54	
			3.3V	0.34	0.44	0.55	
			5V	0.43	0.53	0.63	
			5.5V	0.44	0.57	0.66	
V_{OH}	High レベル出力電圧	$I_{OH} = -50\mu A$	$1.65V \sim 5.5V$	$V_{CC} - 0.1$	$V_{CC} - 0.01$		V
		$I_{OH} = -1mA$	1.65V	1.5	1.6		
		$I_{OH} = -2mA$	2.3V	2.1	2.2		
		$I_{OH} = -8mA$	3V	2.3	2.6		
		$I_{OH} = -12mA$	4.5V	3.6	4		
		$I_{OH} = -12mA$	5.5V	4.7	5		

5.5 電気的特性 (続き)

自由空気での動作温度範囲内、 $T_A = 25^\circ\text{C}$ で測定した代表値 (特に記述のない限り)。

パラメータ	テスト条件	V_{CC}	最小値	標準値	最大値	単位
V_{OL}	Low レベル出力電圧	$I_{OL} = 50\mu\text{A}$	1.65V ~ 5.5V	0.01	0.1	V
		$I_{OL} = 1\text{mA}$	1.65V	0.01	0.1	
		$I_{OL} = 2\text{mA}$	2.3V	0.02	0.1	
		$I_{OL} = 8\text{mA}$	3V	0.05	0.3	
		$I_{OL} = 12\text{mA}$	4.5V	0.06	0.3	
		$I_{OL} = 12\text{mA}$	5.5V	0.06	0.3	
R_p	内部プルアップまたはプルダウン抵抗		1.65V ~ 5.5V	1		MΩ
$I_I^{(1)}$	入力リーク電流	$V_I = 5.5\text{V}$ または GND	5.5V		±200	nA
I_{CC}	電源電流	スタンバイ状態、 $V_I^{(2)} = V_{CC}$ または GND、 $I_O = 0$	5.5V	1	5	μA
I_{CC}	電源電流	低速発振器を使用したアクティブ状態 ⁽³⁾ 、 $V_I = V_{CC}$ または GND、 $I_O = 0$	1.65V	6	8	μA
			2.3V	7	9	
			3V	8	11	
			4.5V	12	19	
			5.5V	16	26	
I_{CC}	電源電流	高速発振器を使用したアクティブ状態 ⁽³⁾ 、 $V_I = V_{CC}$ または GND、 $I_O = 0$	1.65V	57	59	μA
			2.3V	61	62	
			3V	65	66	
			4.5V	79	97	
			5.5V	93	123	
ΔI_{CC}	電源電流の変化	1つの入力、 $0 < V_I < V_{CC}$ 、その他のすべての入力は V_{CC} または GND、 $I_O = 0$	1.65V ~ 5.5V		1.6	mA
C_i		$V_I = 5.5\text{V}$ または GND	5.5V	3		pF

(1) 入力リーク電流には、内部プルアップまたはプルダウン抵抗からの電流は含まれません。

(2) 電源電流テスト中は、内部プルアップまたはプルダウン抵抗を備えた入力は、外部接続から切り離されます。

(3) 各発振器を使用するデバイスの表については、『代表的特性』を参照してください。

5.6 タイミング特性

自由空気での推奨動作温度範囲内 (特に記述のない限り)

パラメータ	説明	条件	V_{CC}	最小値	最大値	単位
$t_{wi}^{(1)}$	入力パルス持続時間	任意のトリガ入力	1.65V	473		ns
			1.8V ± 0.15V	473		
			2.5V ± 0.2V	470		
			3.3V ± 0.3V	468		
			5V ± 0.5V	463		
$t_{wg}^{(1)}$	グリッチ パルス持続時間	任意のトリガ入力	1.65V		90	ns
			1.8V ± 0.15V		90	
			2.5V ± 0.2V		90	
			3.3V ± 0.3V		90	
			5V ± 0.5V		90	

自由空気での推奨動作温度範囲内 (特に記述のない限り)

パラメータ	説明	条件	V _{CC}	最小値	最大値	単位
t _{su}	トリガ入力間のセットアップ時間	$\overline{T}$ は T ↑ または $\overline{CLR}$ ↑ の前に低いです	1.65V	0	ns	
			1.8V ± 0.15V	0		
			2.5V ± 0.2V	0		
			3.3V ± 0.3V	0		
			5V ± 0.5V	0		
		T は $\overline{T}$ ↓ または $\overline{CLR}$ ↑ の前に高いです	1.65V	0	ns	
			1.8V ± 0.15V	0		
			2.5V ± 0.2V	0		
			3.3V ± 0.3V	0		
			5V ± 0.5V	0		
		$\overline{CLR}$ は $\overline{T}$ ↓ または T ↑ の前に高いです	1.65V	0	ns	
			1.8V ± 0.15V	0		
			2.5V ± 0.2V	0		
			3.3V ± 0.3V	0		
			5V ± 0.5V	0		
t _h	ホールド時間	任意のトリガ入力	1.65V	473	ns	
			1.8V ± 0.15V	473		
			2.5V ± 0.2V	470		
			3.3V ± 0.3V	468		
			5V ± 0.5V	463		
t _{startup} ⁽²⁾	起動時間		1.65V ~ 5.5V	265	μs	

- (1) 入力パルス持続時間 (t_{wi}) は、デバイスをトリガするために必要な入力信号パルス幅を示します。グリッチ パルス持続時間 (t_{wg}) は、グリッチ フィルタによって無視される入力信号パルス幅を示します。t_{wi(min)} と t_{wg(max)} の間の入力が無視される場合も、デバイスがトリガされる可能性もあります。
- (2) デバイスの起動中に受信されたトリガは無視できます。

5.7 スイッチング特性

自由空気での動作温度範囲内、 $T_A = 25^\circ\text{C}$ で測定した代表値 (特に記述のない限り)。「パラメータ測定情報」参照

パラメータ	始点 (入力)	終点 (出力)	テスト条件	V _{CC}	最小値	標準値	最大値	単位
t _{pd}	T̄、T、または CLR の 任意のパルス トリガ イ ベント	Q	C _L = 15pF	1.65V		223	312	ns
				2.3V		212	294	
				3V		207	289	
				4.5V		203	283	
				5.5V		201	281	
			C _L = 50pF	1.65V		231	319	
				2.3V		217	299	
				3V		211	291	
				4.5V		206	285	
				5.5V		204	283	
	CLR が Low	Q	C _L = 15pF	1.65V			82	
				2.3V			68	
				3V			63	
				4.5V			59	
				5.5V			57	
			C _L = 50pF	1.65V			76	
2.3V						65		
3V						60		
4.5V						55		
5.5V						55		
t _t	Q	C _L = 15pF	1.65V		14	18	ns	
			2.3V		10	14		
			3V		8	11		
			4.5V		6	9		
			5.5V		5	8		
		C _L = 50pF	1.65V		23	34		
			2.3V		17	25		
			3V		14	20		
			4.5V		11	16		
			5.5V		10	14		
Δt _{wo} ⁽¹⁾		Q	C _L = 50pF	1.65V ~ 5.5V		±1	±10	%
C _{pd} ⁽²⁾	Q	T = V _{CC} 、T̄ = GND、f _i = 1MHz、C _L = 50pF	1.65V		49	pF		
			2.3V		37			
			3V		29			
			4.5V		20			
			5.5V		18			

(1) 出力パルス幅の公称値からの変動。

(2) 消費電力容量は、『CMOS の消費電力と C_{pd} の計算』に従って計算されます。

5.8 代表的特性

$T_A = 25^\circ\text{C}$ (特に記述のない限り)

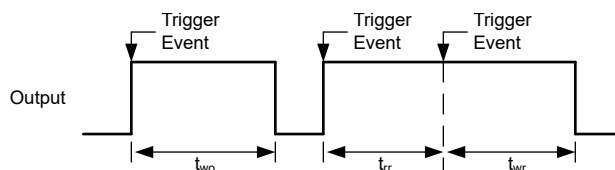


図 5-1. 再トリガ タイミングの定義

表 5-1. 各デバイスおよび構成のパルス幅

デバイス	発振器	パラメータ	タイミング値		
			T1 S1 = H, S0 = L	T2 ⁽¹⁾ S1 = L, S0 = L	T3 S1 = H, S0 = H
TPUL1G51300	低速度	t_{wo}	1s	3s	6.8s
		t_{rr}	510ms	510ms	510ms
		$t_{wr}^{(2)}$	1s	3s	6.8s
		t_{osc}	164ms	164ms	164ms
TPUL1G51301	低速度	t_{wo}	10ms	30ms	68ms
		t_{rr}	0.2ms	0.5ms	1.5ms
		$t_{wr}^{(2)}$	10ms	30ms	68ms
		t_{osc}	40 μs	160 μs	480 μs
TPUL1G51302	高速 ⁽³⁾	t_{wo}	10 μs	32 μs	68 μs
		t_{rr}	8 μs	8 μs	8 μs
		$t_{wr}^{(2)}$	2 μs	24 μs	60 μs
		t_{osc}	0.5 μs	0.5 μs	0.5 μs

- (1) S0 と S1 が接続解除のままになっている場合のデフォルト値。
 (2) 再トリガ パルス幅 (t_{wr}) は、 $-t_{osc}$ まで変動することがあります。
 (3) 高速クロックの起動には約 8 μs が必要で、 t_{wo} と t_{wr} の差が発生します。

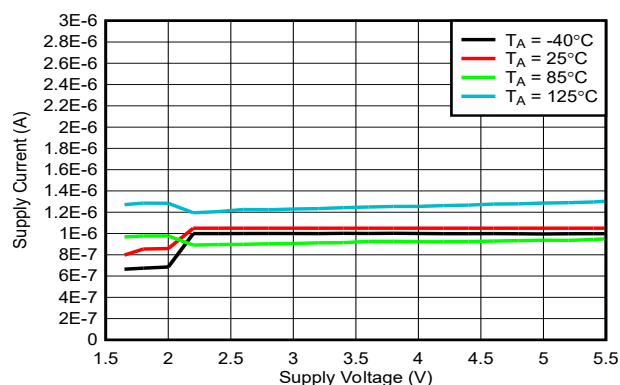


図 5-2. 電源電流と電源電圧との関係

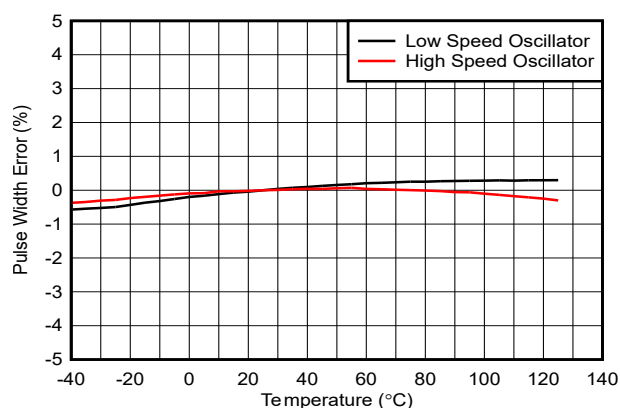


図 5-3. パルス幅誤差と温度との関係

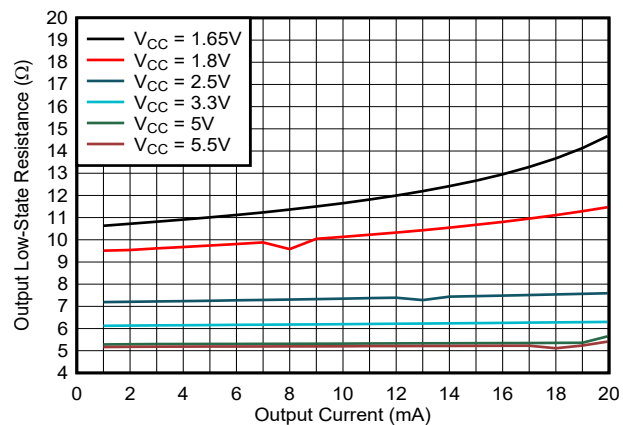


図 5-4. 出力 Low 状態抵抗と出力電流との関係

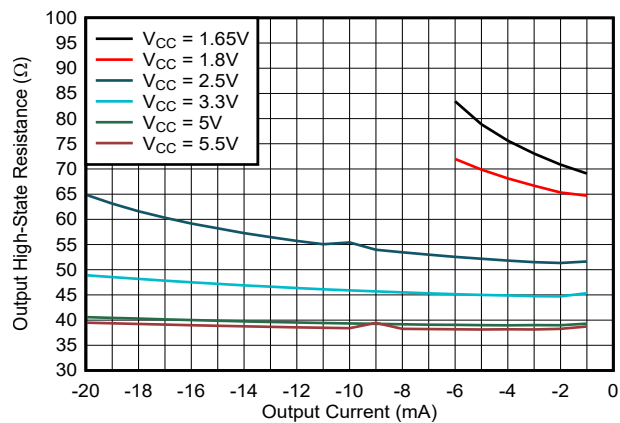
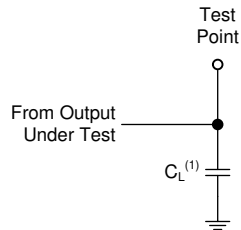


図 5-5. 出力 High 状態抵抗と出力電流との関係

6 パラメータ測定情報

以下の表に示す例では、波形間の位相関係を任意に選択しました。すべての入力パルスは、以下の特性を持つジェネレータによって供給されます。PRR ≤ 1MHz、 $Z_O = 50\Omega$ 、 $t_f < 2.5\text{ns}$ 。

出力は個別に測定され、測定するたびに入力が 1 回遷移します。



(1) C_L にはプローブとテスト装置の容量が含まれます。

図 6-1. プッシュプル出力のための負荷回路

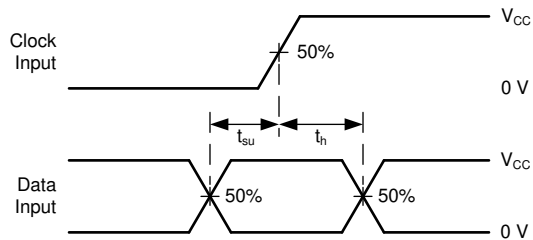
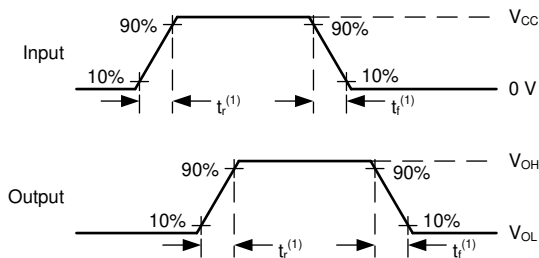


図 6-3. 電圧波形、セットアップ時間およびホールド時間



(1) t_r と t_f の大きい方が t_t に相当します。

図 6-5. 電圧波形、入力および出力の遷移時間

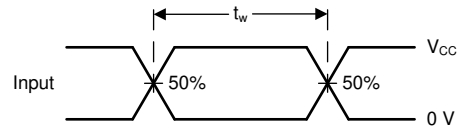
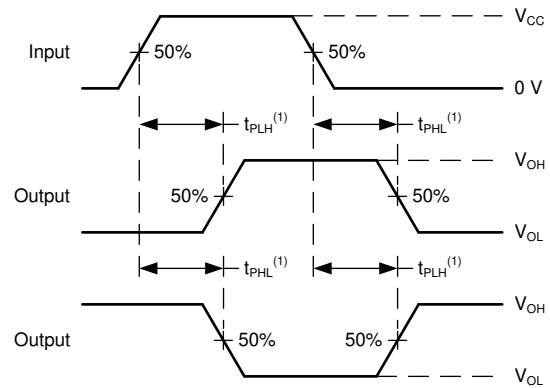


図 6-2. 電圧波形、パルス幅



(1) t_{PLH} と t_{PHL} の大きい方が t_{pd} に相当します。

図 6-4. 電圧波形、伝搬遅延

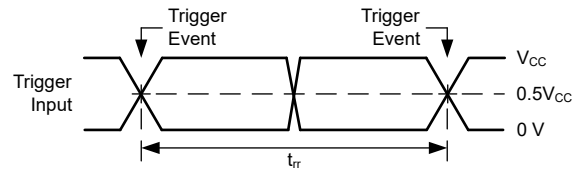


図 6-6. 電圧波形、リトリガ時間

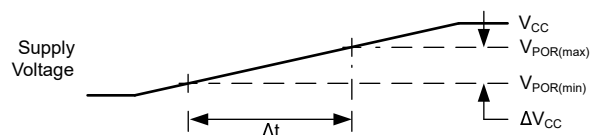


図 6-7. 電圧波形、電源ランプ

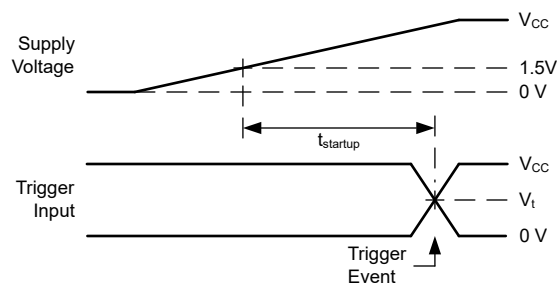


図 6-8. 電圧波形、起動時間

7 詳細説明

7.1 概要

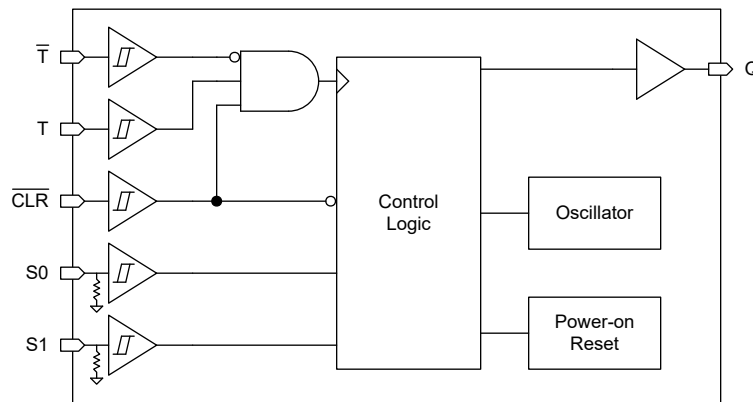
TPUL1G513 デバイスには、デジタル タイミングによる再トリガが可能なモノステーブル マルチバイブレータ回路が搭載されています。モノステーブル マルチバイブレータは、一般的に「ワンショット」とも呼ばれますが、トリガされたときに単一のデジタル パルスを生成し、トリガされたときに一定の出力状態が維持されます。

TPUL1G513 デバイスは、各チャンネルに 3 つのゲート付きトリガ入力を用意しています。立ち上がりエッジトリガには、 T または $\overline{CLR}$ 入力を使用されます。立ち下がりエッジトリガには、 $\overline{T}$ 入力を使用されます。

TPUL1G513 デバイスには非同期クリア入力 ($\overline{CLR}$) が内蔵されており、進行中の出力パルスを終了できます。

トリガされると、TPUL1G513 は、各デバイス向けに事前定義されたパルス幅を持つ正のデジタル パルスを出力します。構成入力 ($S0$, $S1$) を使用して、3 つのパルス幅のいずれかを選択します。タイミング オプションの詳細については、「代表的特性」セクションを参照してください。

7.2 機能ブロック図



7.3 機能説明

7.3.1 命名規則

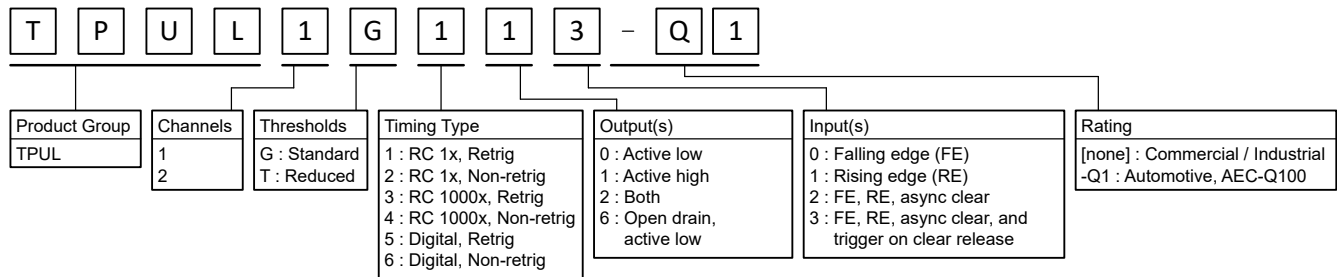


図 7-1. デバイス名の意味

7.3.2 再トリガ可能ワンショット

このデバイスは、固定幅の出力パルスを生成する、再トリガ可能モノステーブル マルチバイブレータ (ワンショット) 回路を内蔵しています。再トリガ可能ワンショットの出力パルス幅は、出力がアクティブな間、追加の入力トリガによって延長されます。他のトリガが受信されていない場合、出力パルスは設定された期間が経過した後に期限切れになります。

再トリガ時間 (t_{rr}) 中、入力トリガは無視されます。タイミング構成によっては、再トリガ時間が合計パルス幅のかかなりの割合を占める可能性があります。詳細については、「標準特性」セクションを参照してください。

7.3.3 タイミングメカニズムと精度

出力パルス幅 (t_{wo}) は、工場出荷時に調整済みの内部発振器とバイナリ カウンタによって生成されます。各デバイスは、3 つの設定可能なパルス幅、T1、T2、T3 を提供します。出力はトリガされると、即座にアクティブになります。次に、発振器がアクティブになり、事前設定されたカウントに達するまでカウンタを駆動します。この時点で発振器と出力が非アクティブになります。

トリガ イベントには、合計パルス幅に発振器の起動時間が含まれます。発振器がすでに動作しており、起動時間がなくなるため、再トリガ イベントはより迅速に完了します。初期トリガ条件と再トリガ条件の両方で予想されるパルス幅については、「代表的特性」セクションのタイミング表を参照してください。

最大パルス幅誤差は、「スイッチング特性」セクションに Δt_{wo} として示され、電圧、設計、製造、温度による変動も含まれます。この変動は、「代表的特性」セクションに示す標準パルス幅のパーセンテージとして示されます。

7.3.4 CMOS プッシュプル出力

このデバイスには、CMOS プッシュプル出力が内蔵されています。このデバイスの駆動能力により、軽負荷に高速エッジが生成される場合があるため、リングングを防ぐために配線と負荷の条件を考慮する必要があります。さらに、このデバイスの出力は、デバイスを損傷することなく維持できる以上に大きな電流を駆動できます。過電流による損傷を防止するため、デバイスの出力電力を制限することが重要です。「絶対最大定格」で定義されている電気的および熱的制限を常に順守してください。

未使用のプッシュプル CMOS 出力は、未接続のままにしておく必要があります。

7.3.5 CMOS シュミット トリガ入力

このデバイスには、シュミットトリガアーキテクチャによる入力 that 搭載されています。これらの入力は高インピーダンスであり、「電気的特性」表に示されている入力静電容量と並列に配置された、入力からグランドまでの抵抗として、通常はモデル化されます。ワースト ケースの抵抗は、「絶対最大定格」表に示されている最大入力電圧と、「電気的特性」表に示されている最大入力リーク電流からオームの法則 ($R = V \div I$) を使用して計算します。

シュミットトリガ入力アーキテクチャでは、「電気的特性」表の ΔV_T で定義されているヒステリシスが発生するため、このデバイスは低速またはノイズの多い入力に対する耐性が非常に優れています。入力は標準 CMOS 入力よりもはるかに低速で駆動できますが、未使用の入力を適切に終端することをお勧めします。入力を低速の遷移信号で駆動すると、「電気的特性」表の ΔI_{CC} として定義されている入力あたりの最大値で、デバイスの動的消費電流が増加します。シュミットトリガ入力の詳細については、『シュミットトリガについて』を参照してください。

動作中は片時も、入力をオープンのままにすることはできません。未使用の入力は、有効な High または Low 電圧レベルで終端する必要があります。システムが入力を常にアクティブに駆動していない場合、システムが入力をアクティブに駆動していないときに有効な入力電圧を与えるため、プルアップまたはプルダウン抵抗を追加できます。抵抗値は複数の要因で決まりますが、10k Ω の抵抗が推奨され、通常はすべての要件を満たします。

内部プルアップまたはプルダウン抵抗を内蔵する入力は、内部で適切な論理レベルに終端されているため、未接続のままにしておくことができます。

7.3.6 既知のパワーアップ状態でのラッチ論理

このデバイスには、ラッチ論理回路が内蔵されています。ラッチ回路には一般に D タイプ ラッチと D タイプ フリップ フロップが含まれていますが、揮発性メモリとして機能するすべての論理回路が含まれています。標準的な論理デバイスでは、電源を最初に印加した後、各ラッチ回路の出力状態は不明です。ただし、このデバイスには追加されたパワー オン リセット (POR) 回路が搭載されており、デバイスが通常機能を開始する前のパワーアップ時に、すべての内蔵ラッチ回路の状態を設定します。

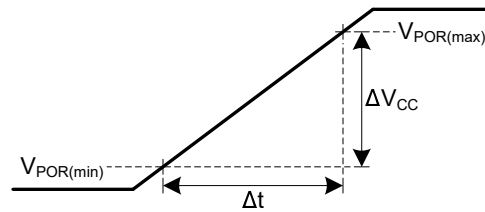


図 7-2. 既知のパワーアップ状態での電源 (V_{CC}) ランプ特性

図 7-2 に、電源電圧の正しいターンオン ランプを示し、「推奨動作条件」と「電気的特性」の表で使用される値を定義しています。

パワーオン ランプを開始する前に、電源が完全にオフになっている必要があります ($V_{CC} \leq V_{POR(min)}$)。

電源電圧は、「推奨動作条件」表に記載されている範囲内の速度で上昇する必要があります。

各ラッチ論理回路の出力状態は、デバイスに電力が印加されている間 ($V_{CC} \geq V_{POR(max)}$) のみ安定した状態を維持します。

これらの推奨事項から逸脱すると、デバイスが未知のパワーオン状態になる可能性があります。

7.3.7 クランプダイオード構造

図 7-3 に示すように、このデバイスの入力と出力には正と負の両方のクランプ ダイオードがあります。

注意

絶対最大定格表に規定されている値を超える電圧は、デバイスに損傷を与える可能性があります。入力と出力のクランプ電流の定格を順守しても、入力と出力の電圧定格を超えることがあります。

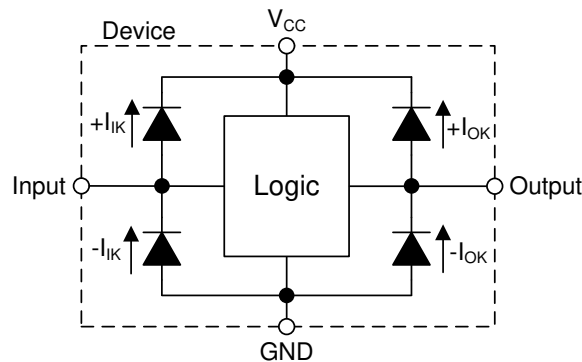


図 7-3. 各入力と出力に対するクランプ ダイオードの電氣的配置

7.4 デバイスの機能モード

7.4.1 スタートアップ動作

TPUL1G513 には内部パワーオンリセット (POR) 回路が搭載され、起動中の誤トリガを防止します。既知のパワーアップ状態でのラッチ論理に記載されている電源ランプ要件の詳細があります。タイミング要件表に従い、スタートアップ時間 ($t_{startup}$) が終了した後で通常動作を開始することができます。アクティブなとき、POR 回路は TPUL1G513 のすべての出力をハイインピーダンス状態に保持します。

7.4.2 オン状態動作

下表に TPUL1G513 のオン状態の機能モードを示します。

表 7-1. 時間構成表

入力		構成 TIMING
S1	S0	
L	L	T2
L	H	—
H	L	T1
H	H	T3

表 7-2. 機能表

入力 ⁽¹⁾			出力 ⁽²⁾	
CLR	T	T	Q	$\bar{Q}$
L	X	X	L	H
H	H	X	L ⁽³⁾	H ⁽³⁾
H	X	L	L ⁽³⁾	H ⁽³⁾
H	L	↑	 ⁽⁴⁾	 ⁽⁴⁾
H	↓	H	 ⁽⁴⁾	 ⁽⁴⁾
↑	L	H		

- (1) H = High 電圧レベル、L = Low 電圧レベル、X = ドントケア
- (2) L = を low に駆動、H = high に駆動、 = 定義されたパルス幅時間の間 high に駆動、 = 定義されたパルス幅時間の間 low に駆動
- (3) これらの出力は、入力で示された定常状態が、すべての出力パルスが完了するくらい十分長い間セットアップされていたという仮定に基づいています。
- (4) 前の出力パルスがアクティブのままで、再トリガ時間 (t_{tr}) が経過した後に出パルスがトリガされると、出力は 1 回の再トリガパルス幅 (t_{wr}) の間 High に駆動し続けます。

8 アプリケーションと実装

注

以下のアプリケーション情報は、TI の製品仕様に含まれるものではなく、TI ではその正確性または完全性を保証いたしません。個々の目的に対する製品の適合性については、お客様の責任で判断していただくことになります。お客様は自身の設計実装を検証しテストすることで、システムの機能を確認する必要があります。

8.1 使用上の注意

TPUL1G513 を使用して、入力トリガ イベントから固定幅パルスを生成します。

8.2 代表的なアプリケーション - エッジ検出器

このアプリケーションでは、TPUL1G513 を使用して入力信号の立ち上がりまたは立ち下がりエッジを検出し、検出された各エッジについて固定幅パルスを出力に生成します。図 8-1 に、立ち上がりエッジ検出器の回路構成を示します。立ち下がりエッジ検出器の場合は、入力信号を T 入力の代わりに $\bar{T}$ 入力に接続し、T 入力を V_{CC} に接続します。S0 = S1 = LOW の場合のデフォルトのタイミング オプション (T2) を示します。T1 を選択するには、S1 を V_{CC} に接続します。T2 を選択するには、S1 と S0 を V_{CC} に接続します。それ以外の場合、コンポーネントと構成は同一です。

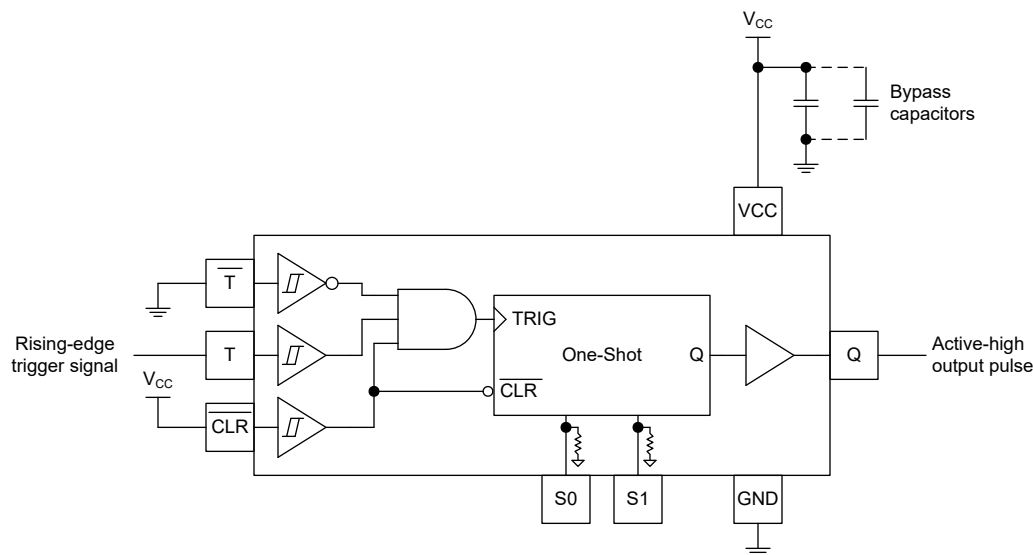


図 8-1. TPUL1G513 を使用したパルス ジェネレータの回路図

8.2.1 設計要件

8.2.1.1 電源に関する考慮事項

求める電源電圧が「電気的特性」で規定されている範囲内であることを確認します。「電気的特性」セクションに記載されているように、電源電圧はデバイスの電気的特性を設定します。

正電圧の電源は、TPUL1G513 のすべての出力によってソースされる総電流、「電気的特性」に記載された静的消費電流 (I_{CC}) の最大値、スイッチングに必要な任意の過渡電流の合計に等しい電流を供給する必要があります。ロジック デバイスは、正の電源から供給される電流のみをソースできます。「絶対最大定格」に記載された V_{CC} 総電流の最大値を超えていないことを確認してください。

グラウンドは、TPUL1G513 のすべての出力によってシンクされる総電流、「電気的特性」に記載された消費電流 (I_{CC}) の最大値、スイッチングに必要な任意の過渡電流の合計に等しい電流をシンクする必要があります。ロジック デバイスは、グラウンド接続にシンクできる電流のみをシンクできます。「絶対最大定格」に記載された GND 総電流の最大値を超えないようにしてください。

TPUL1G513 は、データシートの仕様をすべて満たしながら、合計容量 50pF 以下の負荷を駆動できます。より大きな容量性負荷を印加することもできますが、50pF を超えてはいけません。

TPUL1G513 は、合計抵抗が $R_L \geq V_O / I_O$ で表される負荷を駆動することができ、出力電圧と電流は「電気的特性」表で定義されている V_{OH} および V_{OL} を使用します。High 状態で出力する場合、この式の出力電圧は、測定した出力電圧と V_{CC} ピンの電源電圧の差として定義されます。

TPUL1G513 には内部プルダウン抵抗を備えた入力が搭載されています。プルダウン抵抗は内部で GND に接続されており、次の式に従って入力電圧 (V_i) とプルダウン抵抗 (R_{pd}) に基づいて総グランド電流を増加させます。 $I_{pd} = V_i / R_{pd}$

総消費電力は、[CMOS の消費電力と Cpd の計算アプリケーション ノート](#) に記載された情報を使って計算できます。

温度の上昇は、[標準リニアおよびロジック \(SLL\) パッケージおよびデバイスの熱特性 アプリケーション ノート](#) に記載された情報を使って計算できます。

注意

「絶対最大定格」に記載された最大接合部温度 ($T_{J(max)}$) は、本デバイスの損傷を防止するための追加の制限値です。「絶対最大定格」に記載されたすべての制限値を必ず満たすようにしてください。これらの制限値は、デバイスへの損傷を防ぐために規定されています。

8.2.1.2 入力に関する考慮事項

入力信号は、 $V_{t(min)}$ を超えるとロジック LOW と見なされ、 $V_{t(max)}$ を超えるとロジック HIGH と見なされます。「絶対最大定格」に記載された最大入力電圧範囲を超えないようにしてください。

未使用の入力は、 V_{CC} またはグランドに終端させる必要があります。入力がまったく使われていない場合は、未使用の入力を直接終端させることができます。入力が常時ではなく、時々使用される場合は、プルアップ抵抗かプルダウン抵抗と接続することも可能です。デフォルト状態が HIGH の場合にはプルアップ抵抗、デフォルト状態が LOW の場合にはプルダウン抵抗を使用します。コントローラの駆動電流、TPUL1G513 へのリーク電流（「電気的特性」で規定）、および必要な入力遷移レートによって抵抗のサイズが制限されます。こうした要因により 10k Ω の抵抗値がしばしば使用されます。

TPUL1G513 にはプルダウン抵抗を備えた入力が搭載されています。これらの入力は未接続のままにすることができ、その場合、この入力は内部的に GND に設定されます。

TPUL1G513 にはシュミットトリガ入力があるため、非常に低速の入力信号遷移レートをサポートします。「推奨動作条件」を参照してください。

シュミットトリガ入力を採用するもう 1 つの利点は、ノイズを除去できることです。振幅の大きなノイズの場合でも、問題が発生することがあります。問題を発生させる可能性があるノイズの大きさについては、『電気的特性』表の $\Delta V_{T(min)}$ を参照してください。このヒステリシス値により、ピークツーピーク制限が得られます。

標準的な CMOS 入力とは異なり、シュミットトリガ入力は、消費電力を大幅に増加させることなく、任意の有効な値に保持できます。 V_{CC} でもグランドでもない値に入力を保持した場合に発生する追加の電流（代表値）を『代表的特性』セクションのグラフに示します。

このデバイスの入力の詳細については、「機能説明」を参照してください。

8.2.1.3 出力に関する考慮事項

正の電源電圧を使用して、出力 HIGH 電圧を生成します。出力から電流を引き出すと、「電気的特性」の V_{OH} 仕様で規定されたように出力電圧が低下します。グランド電圧を使用して、出力 LOW 電圧を生成します。出力に電流をシンクすると、「電気的特性」の V_{OL} 仕様で規定されたように出力電圧が上昇します。

非常に短い期間であっても、逆の状態になる可能性があるプッシュプル出力は、互いに直接接続しないでください。これは、過電流やデバイスへの損傷を引き起こす可能性があります。

未使用の出力はフローティングのままにできます。出力を V_{CC} またはグランドに直接接続しないようにしてください。

本デバイスの出力の詳細については、「機能説明」セクションを参照してください。

8.2.2 詳細な設計手順

1. V_{CC} と GND の間にデカップリング コンデンサを追加します。このコンデンサは、物理的にデバイスの近く、かつ V_{CC} ピンと GND ピンの両方に電氣的に近づけて配置する必要があります。レイアウト例を「レイアウト」セクションに示します。
2. 出力の容量性負荷は、必ず 50pF 以下になるようにします。低負荷キャパシタンスは、TPUL1G513 から受信デバイスまでのトレースを短く適切なサイズにすることで実現できます。
3. 出力の抵抗性負荷を $(V_{CC} / I_{O(max)})\Omega$ より大きくします。「絶対最大定格」の最大出力電流を超えないようにしてください。ほとんどの CMOS 入力は、M Ω 単位で測定される抵抗性負荷を備えています。これは、上記で計算される最小値よりはるかに大きい値です。
4. 熱の問題がロジック ゲートにとって問題となることはほとんどありません。ただし、消費電力と熱の上昇は、『CMOS 消費電力と CPD 計算のアプリケーション レポート』に記載されている手順を使用して計算できます。

8.2.3 アプリケーション曲線

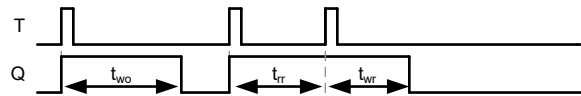


図 8-2. 出力パルスのタイミング図

8.3 電源に関する推奨事項

電源には、「推奨動作条件」に記載された電源電圧定格の最小値と最大値の間の任意の電圧を使用できます。

起動中、電源は、「推奨動作条件」表に規定された起動ランプ レートの範囲内で立ち上がる必要があります。

電源の障害を防止するため、各 V_{CC} 端子に適切なバイパス コンデンサを配置する必要があります。TPUL1G513 の通常動作には、0.1 μ F バイパス コンデンサを推奨します。異なる周波数のノイズを除去するため、複数のバイパス コンデンサを並列に配置します。通常、0.1 μ F と 1 μ F の値のコンデンサを並列にして使います。

8.4 レイアウト

8.4.1 レイアウトのガイドライン

- バイパス コンデンサの配置
 - デバイスの正電源端子の近くに配置
 - 電氣的に短いグラント帰還パスを提供
 - インピーダンスを最小化するため、広いパターンを使用
 - 可能な場合はいつでも、ボードの同じ側にデバイス、コンデンサ、パターンを配置
- 信号トレースの形状
 - 8mil~12mil のトレース幅
 - 伝送ラインの影響を最小化する 12cm 未満の長さ
 - 信号トレースの 90° のコーナーは避ける
 - 信号トレースの下に、途切れのないグラント プレーンを使用
 - 信号トレース周辺の領域をグラントでフラッド フィル
 - 平行配線は、3 倍以上の誘電体厚で分離する必要があります
 - 12cm を超えるパターン用
 - インピーダンス制御トレースを使用
 - 出力の近くに直列ダンピング抵抗を使用して、ソース終端
 - 分岐を回避。個別に分岐が必要なバッファ信号

8.4.2 レイアウト例

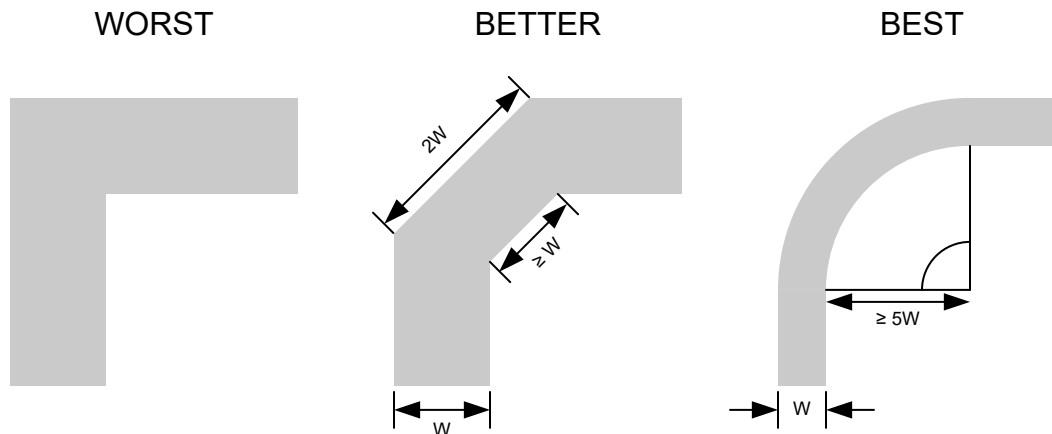


図 8-3. シグナル インテグリティ向上のためのサンプル パターンのコーナー

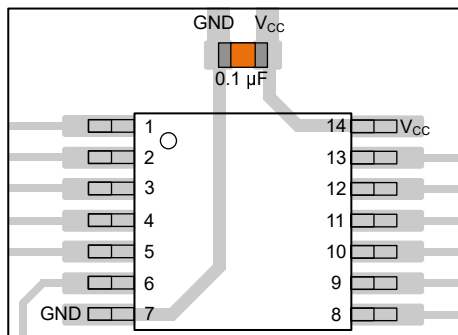


図 8-4. TSSOP や類似のパッケージに対応するバイパス コンデンサの配置例

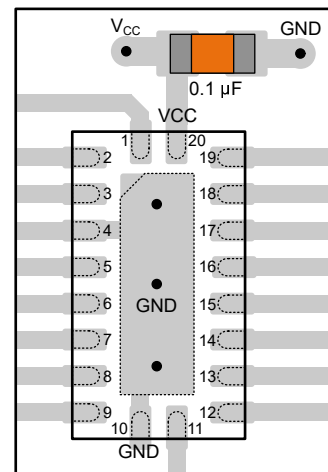


図 8-5. WQFN や類似のパッケージに対応するバイパス コンデンサの配置例

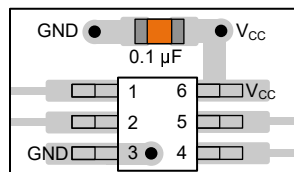


図 8-6. SOT、SC70、および類似のパッケージに対応するバイパス コンデンサの配置例

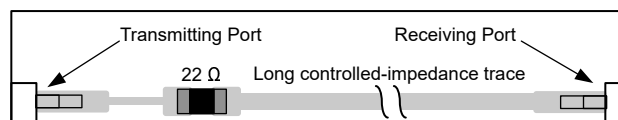


図 8-7. シグナル インテグリティ向上のためのダンピング抵抗の配置例

9 デバイスおよびドキュメントのサポート

テキサス・インスツルメンツは、幅広い開発ツールを提供しています。デバイスの性能の評価、コードの生成、ソリューションの開発を行うためのツールとソフトウェアを以下で紹介します。

9.1 ドキュメントのサポート

9.1.1 関連資料

関連資料については、以下を参照してください。

- テキサス・インスツルメンツ、『[CMOS の消費電力と \$C_{pd}\$ の計算](#)』アプリケーション ノート
- テキサス・インスツルメンツ、『[ロジック設計](#)』アプリケーション ノート
- テキサス・インスツルメンツ、『[標準リニアおよびロジック \(SLL\) パッケージおよびデバイスの熱特性](#)』アプリケーション ノート

9.2 ドキュメントの更新通知を受け取る方法

ドキュメントの更新についての通知を受け取るには、www.tij.co.jp のデバイス製品フォルダを開いてください。[通知] をクリックして登録すると、変更されたすべての製品情報に関するダイジェストを毎週受け取ることができます。変更の詳細については、改訂されたドキュメントに含まれている改訂履歴をご覧ください。

9.3 サポート・リソース

テキサス・インスツルメンツ E2E™ サポート・フォーラムは、エンジニアが検証済みの回答と設計に関するヒントをエキスパートから迅速かつ直接得ることができる場所です。既存の回答を検索したり、独自の質問をしたりすることで、設計に必要な支援を迅速に得ることができます。

リンクされているコンテンツは、各寄稿者により「現状のまま」提供されるものです。これらはテキサス・インスツルメンツの仕様を構成するものではなく、必ずしもテキサス・インスツルメンツの見解を反映したものではありません。テキサス・インスツルメンツの[使用条件](#)を参照してください。

9.4 商標

テキサス・インスツルメンツ E2E™ is a trademark of Texas Instruments.
すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

9.5 静電気放電に関する注意事項



この IC は、ESD によって破損する可能性があります。テキサス・インスツルメンツは、IC を取り扱う際には常に適切な注意を払うことを推奨します。正しい取り扱いおよび設置手順に従わない場合、デバイスを破損するおそれがあります。

ESD による破損は、わずかな性能低下からデバイスの完全な故障まで多岐にわたります。精密な IC の場合、パラメータがわずかに変化するだけで公表されている仕様から外れる可能性があるため、破損が発生しやすくなっています。

9.6 用語集

[テキサス・インスツルメンツ用語集](#) この用語集には、用語や略語の一覧および定義が記載されています。

10 改訂履歴

資料番号末尾の英字は改訂を表しています。その改訂履歴は英語版に準じています。

日付	改訂	注
April 2026	*	初版リリース

11 メカニカル、パッケージ、および注文情報

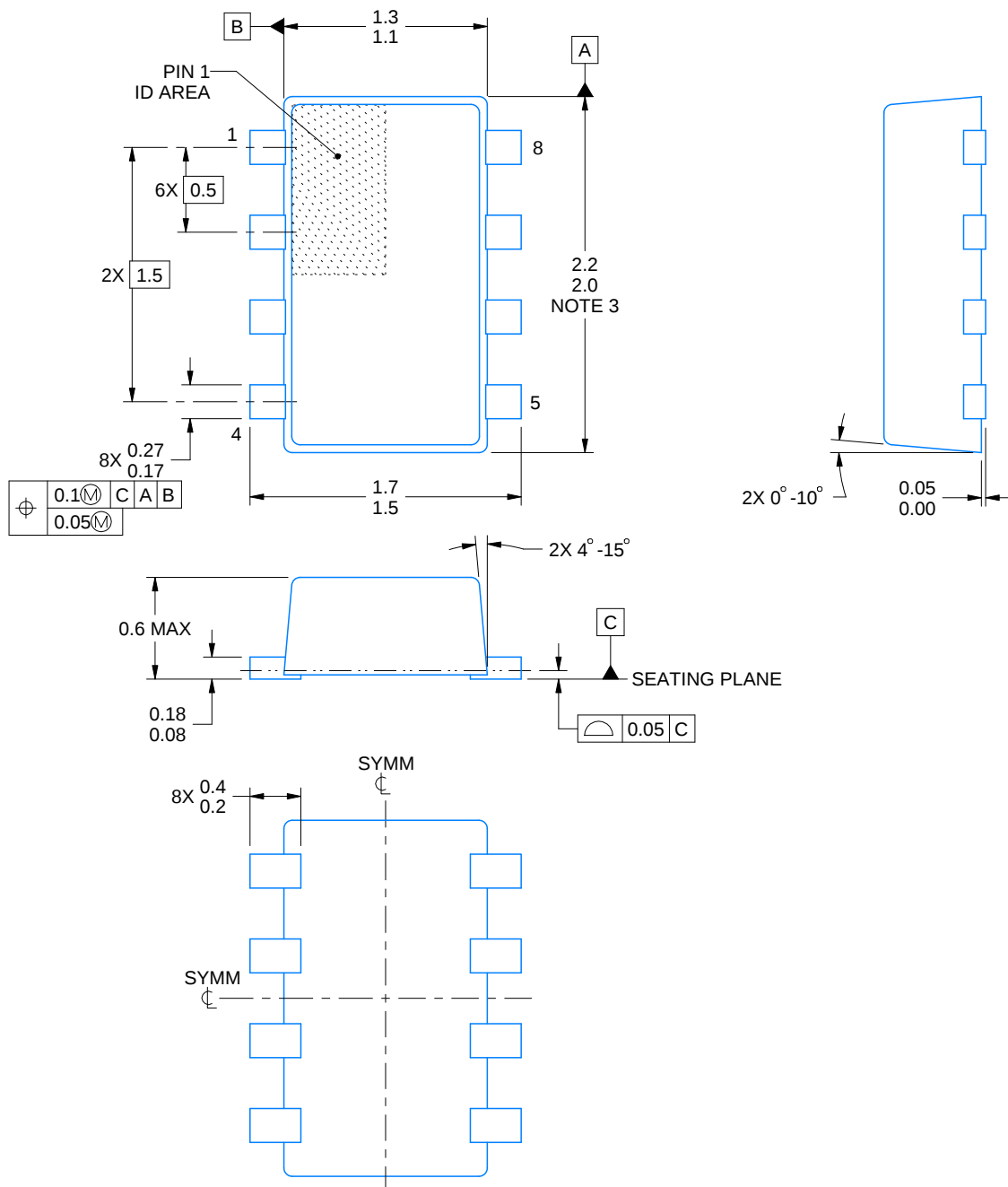
以降のページには、メカニカル、パッケージ、および注文に関する情報が記載されています。この情報は、指定のデバイスに使用できる最新のデータです。このデータは、予告なく、このドキュメントを改訂せずに変更される場合があります。本データシートのブラウザ版を使用されている場合は、画面左側の説明をご覧ください。

DRL0008A

PACKAGE OUTLINE

SOT-5X3 - 0.6 mm max height

PLASTIC SMALL OUTLINE



4224486/G 11/2024

NOTES:

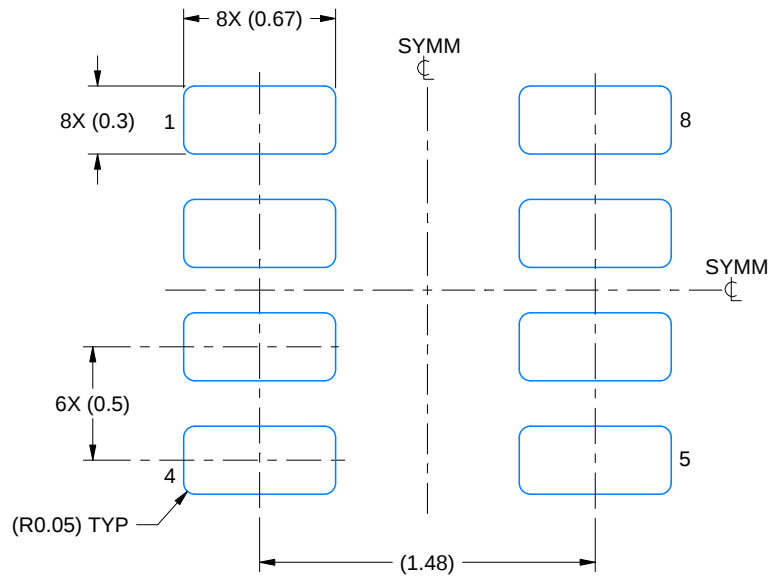
1. All linear dimensions are in millimeters. Any dimensions in parenthesis are for reference only. Dimensioning and tolerancing per ASME Y14.5M.
2. This drawing is subject to change without notice.
3. This dimension does not include mold flash, protrusions, or gate burrs. Mold flash, interlead flash, protrusions, or gate burrs shall not exceed 0.15 mm per side.
- 4.Reference JEDEC Registration MO-293, Variation UDAD

EXAMPLE BOARD LAYOUT

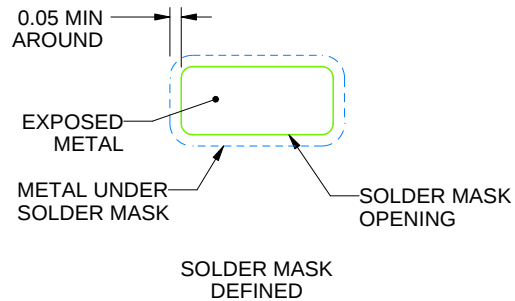
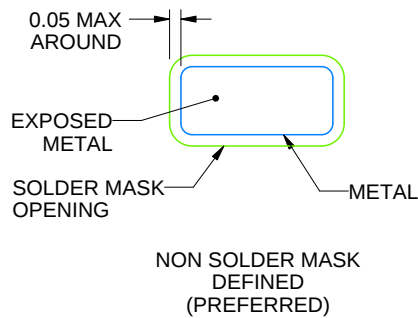
DRL0008A

SOT-5X3 - 0.6 mm max height

PLASTIC SMALL OUTLINE



LAND PATTERN EXAMPLE
EXPOSED METAL SHOWN
SCALE:30X



SOLDERMASK DETAILS

4224486/G 11/2024

NOTES: (continued)

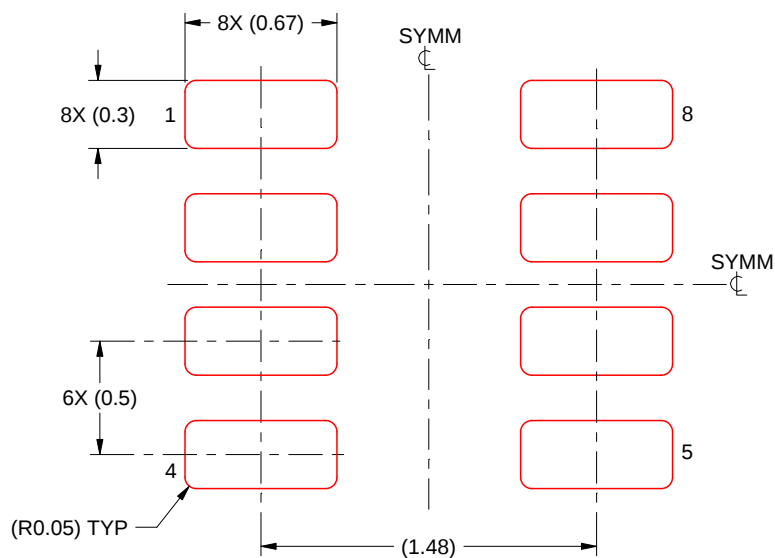
5. Publication IPC-7351 may have alternate designs.
6. Solder mask tolerances between and around signal pads can vary based on board fabrication site.
7. Land pattern design aligns to IPC-610, Bottom Termination Component (BTC) solder joint inspection criteria.

EXAMPLE STENCIL DESIGN

DRL0008A

SOT-5X3 - 0.6 mm max height

PLASTIC SMALL OUTLINE



SOLDER PASTE EXAMPLE
BASED ON 0.1 mm THICK STENCIL
SCALE:30X

4224486/G 11/2024

NOTES: (continued)

8. Laser cutting apertures with trapezoidal walls and rounded corners may offer better paste release. IPC-7525 may have alternate design recommendations.
9. Board assembly site may have different recommendations for stencil design.

重要なお知らせと免責事項

TI は、技術データと信頼性データ (データシートを含みます)、設計リソース (リファレンス デザインを含みます)、アプリケーションや設計に関する各種アドバイス、Web ツール、安全性情報、その他のリソースを、欠陥が存在する可能性のある「現状のまま」提供しており、商品性および特定目的に対する適合性の黙示保証、第三者の知的財産権の非侵害保証を含みいかなる保証も、明示的または黙示的にかかわらず拒否します。

これらのリソースは、TI 製品を使用する設計の経験を積んだ開発者への提供を意図したものです。(1) お客様のアプリケーションに適した TI 製品の選定、(2) お客様のアプリケーションの設計、検証、試験、(3) お客様のアプリケーションに該当する各種規格や、その他のあらゆる安全性、セキュリティ、規制、または他の要件への確実な適合に関する責任を、お客様のみが単独で負うものとし、TI は一切の責任を拒否します。

上記の各種リソースは、予告なく変更される可能性があります。これらのリソースは、リソースで説明されている TI 製品を使用するアプリケーションの開発の目的でのみ、TI はその使用をお客様に許諾します。これらのリソースに関して、他の目的で複製することや掲載することは禁止されています。TI や第三者の知的財産権のライセンスが付与されている訳ではありません。お客様は、これらのリソースを自身で使用した結果発生するあらゆる申し立て、損害、費用、損失、責任について、TI およびその代理人を完全に補償するものとし、TI は一切の責任を拒否します。

TI の製品は、[TI の販売条件](#)、[TI の総合的な品質ガイドライン](#)、[ti.com](#) または TI 製品などに関連して提供される他の適用条件に従い提供されます。TI がこれらのリソースを提供することは、適用される TI の保証または他の保証の放棄の拡大や変更を意味するものではありません。TI がカスタム、またはカスタマー仕様として明示的に指定していない限り、TI の製品は標準的なカタログに掲載される汎用機器です。

お客様がいかなる追加条項または代替条項を提案する場合も、TI はそれらに異議を唱え、拒否します。

Copyright © 2026, Texas Instruments Incorporated

最終更新日：2025 年 10 月